

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケア サポート		
事業所名	グループホーム若葉園(南館)		
所在地	熊本県球磨郡多良木町大字多良木1,537		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本3丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成28年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多良木駅から徒歩で3分のところに位置し、周りにはえびす温泉、えびす物産館、多目的グラウンド等が集まり、環境にはやさしい雰囲気があり利用者の皆様のケアには大変すばらしいところです。同敷地内に小規模多機能ホームわかば園があり、敬老会、運動会などお互いに行き来し交流を深めています。また小規模のホームの隣には共生施設があり、放課後学童保育が行われています。子供たちの「ただいま～」の声を聞く事を楽しみに学校から帰ってくるのを皆さん待っています。学童の子供たちは、夏休みや行事があるたびに駆けつけてくれ、高齢者とのふれあいを大切にしてくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所からこの5月には10年の節目を迎えようとしているホームである。山間にありながらも町の中心部に位置し、利便性に富み特に道路を挟んだ公園周辺は、入居者の生活に欠かせない場所となっている。ホーム内は入居者と職員が和気あいあいと生活し、入居者自身も調理や洗濯に関わり、室内外環境の整備など出来ることで日々の暮らしに参加し、大家族の一員としての役割が自信となって活気ある日常が展開されている。信頼関係が構築した中で「最期をホームで」と、望む家族も多く、何かあればすぐに駆けつけてくれる協力医の存在が健康面への不安や終末期ケアにも誠意をもって関わり、ホームでの看取りを可能にしている。『身体拘束ゼロ宣言』を掲げ、いかなる拘束も行わないことを柱として本年度は、「アンガーマネジメント」の手法について運営推進会議の中でも紹介し、職員自身の精神コントロールの重要性をケアの中で実践している。職員の質の向上に向けた努力が実を結ぶことを更に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアーのよく目に付くところに掲示し職員一人ひとりの目環境に配慮しているとともに、ミーティング時に理念に沿ったサービスが出来ているか確認し合い、サービスの向上に努めている。	理念は各ユニットのフロアーに掲示され、ケア規範として職員が常に目にすることが出来るよう工夫している。開所当時から6項目からなる理念には、入居者の気持ちをくみ取りながら対応することや、地域の中で安心して暮らせる場所であることなどを盛り込んでいる。ケア会議やミーティングで振り返り、評価を繰り返しながら理念を追求している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、祭り等に参加したり、学童保育や共生施設の利用によりグループホームにも出入りが増えてきている。徘徊、声掛け訓練に散歩かたがた参加されています。町内はもとより、町外からの体験学習の受け入れもし、交流は確実に増えている。	町の中心部に位置するホームは、周辺に行政機関や主要な施設が徒歩圏内にあり、地域情報の収集にも一役を買っている。目の前の公園はイベントや祭りの会場としてまた、日々の散歩先として活用され、すっかり馴染みの場所となっている。近年ホーム入り口に設置された伝言板は、公園利用者や地域へ向けた情報発信の手段として活用が期待され、施設長が会合の機会に地域へ向け認知症についてミニ講話で啓発するなど、地域貢献も果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	若葉園グラウンドゴルフ大会を年、2回行い、認知症のことや若葉園の事をお話しています。また、地区の寄り合い等に参加した時には、短時間の認知症の話をさせてもらっている。インフォメーションには認知症啓蒙のポスターを掲載しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーは行政、地域包括、区長、民生委員、家族代表、利用者代表と多彩で、全員の方を指名し意見を述べてもらいます。今年も看とりについて園側、利用者家族の意見、要望等について話しています。	行政や地域包括支援センター職員、地域や家族代表者が参加し、隣接する小規模多機能事業所との合同会議が開催されている。日頃の取り組みや運営状況、入居者の現状からホームの「今」を伝え、透明性のある内容となっている。地域包括主催の徘徊模擬訓練に協賛し、地域全体で認知症高齢者を支える取り組みについて開催後の評価や課題を協議したり、入居者の家族から希望の多い看取りについての内容なども議題としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場が大変近くにあるので、行政からの情報等は直ぐに連絡をいただいています。園からは、電話等でも報告を聞いて頂いたり、また、役場に出かけ相談等を気軽にしております。	町の情報は運営推進会議の席や、電話にて早々にホームにもたらされ、施設長が必要に応じて直接役所を訪れては質問や相談事に応じてもらうなど友好的な関係を築いている。平成26年夏にスタートした町の補助金制度は、入居者家族の負担軽減措置として他町村からも注目されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳を第一に、身体拘束、虐待の勉強会を行い、実践に繋げている。また、外出の希望があれば職員付き添いで散歩をしている。夜間施錠が基本としている。リビングには事故0の表示をし、転倒防止のケアに努めています。	リビング内に『身体拘束ゼロ宣言』の誓いを掲示し、職員の戒めとしながら拘束のないケアの実践に向け努力をしている。会議の席ばかりでなくテレビや外部情報からの事例を通じ、日頃から話し合いの場を持ち、本年度は特に怒りを上手にコントロールする“アングーマネジメント”の手法を取り入れ、イライラが暴言や暴力に繋がらない様、職員自身が自分の気持ちに余裕を持つことで、入居者への対応も変わってくるとして日々のケアに取り入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことは運営推進会議や社内研修時に報告をし、虐待に対する考え方を認識してもらっている。また、手のあざ等介護際につく内出血等、介護の工夫も話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人が自らの意思を表現できるように、感情や顔の表情に注意しながら支援をおこなっている。成年後見制度の利用はないが、研修会に参加し、社内ミーティングにて制度について話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には契約書、重要事項説明書の内容を十分に説明し、看とりに関しての契約についても質問を行い、余裕を持って契約をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の方とコミュニケーションをとり意見を聞きだす事に努めている。また、管理者が面会の家族に直接対話し、要望等伺っている。また、家族会が中断となって居りますので復活を目標に考えています。	家族の面会時には入居者の様子を実際に見てもらいながら、ケアへの要望やホームへの意見をもらうよう投げかけている。入居者の中にははっきりとした要望を職員に伝える方もおられるが、表現困難な方へは、日頃接する中で行動や表情からくみ取り、ケアに繋げるよう努めている。	開所10年の節目でもあり、新たな気持ちで家族へのアンケートを実施し、更なる入居者へのより良い支援に活かされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体朝礼の時に代表者は経営や運営の意向を伝えまた、各棟のミーティングを行い要望や問題等を、リーダーミーティングの際には相談や意見を受け入れてもらっている。	小規模多機能事業所を含む各ユニット代表者3名による合同ミーティングの後、それぞれのユニットで朝礼を開き情報を共有して1日のスタートを切っている。代表者や施設長は職場環境の充実を目指し、NO残業の徹底や資格取得に向けた金銭面へのバックアップ体制を確立し、働きやすいホーム運営を実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は職員の個々の能力を出せるような研修参加や環境を作りを行い出来るだけ残業等はしないように退席時間の厳守を指導している。処遇改善手当は毎月の基本給に手当として加算して支払をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はもとより資格取得の費用を全額会社負担とし、仕事に対するやる気と自信を持ちながら業務に就けるように支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ではグループホーム協議会が組織され2ヶ月に1回の研修会と、12月には忘年会が開催され、交流も盛んである。また、各GHを利用者と一緒に訪問し交流を行っています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所まえの聞き取を参考に本人と家族の不安、要望を聞き取り、安心して生活できるようにカンファレンスにて介護の統一をはかりプランに反映をさせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より家族の方に園内見学をしてもらい園での雰囲気を感じてもらっている。月末に一月分の利用者の方の生活、体調、行事等、担当者が書面にて報告をしている。病気、事故等はその都度連絡を入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所直後、暫くは頻繁に連絡を取り合ったり面会を促したりして利用者の方が一日でも落ち着き、早くなれていただくように支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にできること(掃除、洗濯物干し、たたみ野菜の皮むき、刻み)などできることを職員と一緒にしたり、他利用者のお世話をしている場面も見られます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとに家族の方をご案内し、利用者、家族、職員の信頼関係をつくりお互いに何でも言える環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人面会時には記念写真をとり双方に渡し、再度の来園をうながしたり、出身地域へのバスハイク、多良木町のえびす祭り等に参加し神輿の声援なども行っている。親戚関係の集まりの時は家族または職員が付き添いで出かける支援をしている。不穏が生じたら自宅まで同行し落ち着かれるまでごいっしょします。	職員は入居者の生活歴や、ホームでの生活ぶりから特技や馴染みの習慣を見出し、野菜の皮むきや食器洗い・おぼん拭きなど調理への関りや、洗濯干し、園芸など一人ひとりが得意とされることを継続して支援している。また、法事の際の送迎や自宅や自宅近くへの外出時には懐かしい近隣者に声をかけるなど、馴染みの場や人との関りが途切れない様対応している。	面会された入居者の知人が、自分をわかれられないことにショックを受けた方もいたようだが、施設長はここで新たに思い出を作ってもらおうよう伝えるなど、再度面会の機会を促し関係性の継続に努めている。今後も必要な支援だと考える。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の性格や意向を汲み取り、席の配置を考えて気分良く生活をしていただいている。利用者間のトラブルの際は職員が直ぐに間に入る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族様が遠方のために家族さまと代わり、病院へ伺い状況をお話している。定期的に病院、施設を訪問し面会をし、そのたびに家族との連絡を取り合っている。また相談にも対応をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成者は入居前のアセスメントにより本人の希望、意向を確認し、入居後も必要時にカンファレンスを実施し本人の意向を把握するようにしている。意思の疎通が困難な場合は家族との意見交換や入居後の行動、表情などで判断している。職員に合わせた介護でなく本人主体で支援しています。	入居者との関わりから日頃思っていることや希望を聞き取ったり、入居者同士の会話の中に本音を拾いながら職員は思いを確認している。また、意思疎通の取れない方へは家族や以前の担当ケアマネジャーから情報を収集し、日頃の入居者の様子とすり合わせながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、家族、CM等のアセスメントにて生活歴、嗜好、サービス利用の過程等詳しく聞き取り把握をしている。また面会のときに職員からの生活パターンを再確認をしたり、様子を見ながらサービスの変更をしながら本人が快適に暮らせるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者、職員は毎日の生活支援の中で、観察記録、情報交換により把握をしている。また本人に出来る事はして頂こうと声掛けするものの無理に作業、レクリエーション等に誘わないようにし、様子を観察をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向を大切に、介護の統一化をするため、全員でのカンファレンスを行い、その結果をプランに反映させながら、本人に合うケアプランを全員で検討し作成をしている。また退院時には特に病院側とこれから本人の機能アップについても協議をしプランに繋げています。	計画作成担当者は、本人や家族の意向をもとに職員からあがった声を反映させ、必要な内容をプランに計上している。短期目標を確認しながら評価し、入退院に伴う状態の変化には入院中の入居者を頻回に見舞いながら退院後のプラン修正により現状に即した内容を盛り込んでいる。家族へのプラン説明にあたって、必要があれば担当医師も同席し、わかりやすい表現に徹しながら説明した後、了承を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践にあたり、本人の変化を直ぐに気づく様な洞察力を養いながら、職員全員が記録により情報の共有をしている。また、引き継ぎも何回も行い、事故がないよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅希望の利用者が家族の都合で向かえにこれないとき自宅までの送迎や、個々の買い物などの支援等をしている。また、法事等の時は付添にて対応している。家族が忙しい時はこちらから本人を家まで送りお互いに安心できる環境を作っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、ボランティアの訪問を地域に呼びかけたり、非常時の対応について消防署、行政に指導を仰いだり、共同訓練をしている。今回は徘徊、声掛け訓練を行いました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に密な連絡、連携体制がとれており定期的にホームを訪問、熱発時には往診など日曜日でも対応をしていた。また、緊急対応時には救急車で病院まで付き添って頂いてもらい、利用者・職員も助かっています。看取り時にも先生が付き添って頂き職員もご家族様も安心しています。	ホーム運営に理解のある協力医の存在は、入居者の健康、それを支える家族や職員の安心となっておりかかりつけ医として尽力をいただいている。協力医による往診の他、医療機関への受診はホームが中心に行っており、診察結果や健康状態などは常に家族へ報告している。高齢や今後の重度化も見据え、現在、医師と家族を含めた個別面談を行っている。口腔ケアでは、食後の歯磨きや義歯の管理、協力歯科の訪問による口腔内チェックも行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身状態の変化を見過ごさないように、気付いた情報を看護師に伝え、利用者が適切、迅速に処置を受けられるように協力医と連絡をとり支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状況を医療機関に報告し、入院時には看護師、担当医に治療状況の把握をしている。また利用者に安心感を与えるため、職員が毎日のように面会に行き、声掛けや食事の介助など支援している。また退院時にはDr.看護師とカンファレンスを行い、定期的に園に来て頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、契約時に出来ること出来ないことを家族に伝えている。またホームで出来る支援を家族、かかりつけ医、管理者、職員と協議し医師の指示の下に支援をしている。医師より家族と職員に今の利用者の状態、これからの流れ等を説明してもらっている。職員に対し終末期の介護支援の講習をしている。	契約時に重度化・終末期の対応について、ホームにできる事、できないことを説明している。協力医の力を得ながら、職員が心一つに出来る最良の支援にあたっている。終末期支援中、本人の苦痛による発声などが生じた場合は、医師の判断で医療機関への搬送など、その時々に応じ決定している。協力医より、夜勤者の精神面の負担を理解し、支えとなる心強い言葉が職員にかけられている。終末期支援については、医療機関より講師を招いた研修会も行われ、職員の心にも良い影響となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署、協力医を招き講習をおこなっている。また、緊急時に備えマニュアルをよく見える所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練には自治会、消防署、消防団に参加を呼びかけている。マニュアルの掲示、説明を定期的に行っている。特に当園は水害が考えられないため、10日に一回防火点検を行っている。またAED設置もインフォメーションに掲示している。	災害訓練時、消防署・消防団・自治会に参加協力を依頼し実施している。また、半年ごとの防火設備点検や防火自主チェック表(①コンセント・プラグの埃や安全キャップ、②電気・ガス器具周辺付近に紙類などないか等5項目)により安全確認を行っている。AEDについての研修会を行い、設置についてはインフォメーションで掲示している。備蓄は隣接の小規模事業所で管理しており、内容は職員も周知している。	地域と連携しながら災害対策に努めており、今後も入居者の安全確保にあたっていただきたい。また、水害や地震については、これまで地域への被害はないが、机上訓練など、自然災害の驚異を風化させない取り組みも望まれる。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊重やプライバシー保護は家族にも十分に説明し、写真の使用を了解をもらっている。また、利用者の方が傷つかないような声掛け、声の大きさなど特にトイレ誘導等羞恥心を損ねないよう対応をしている。	入居者の尊厳やプライバシーに配慮した支援については、理念や方針を共有しながら入居者の対応にあたっている。排泄時の誘導やお盆拭きを手伝われる方へ、傘が落ちてもし心配の無いようボールを添えるなど、家事支援が自信や楽しみに繋がるような細やかなサポート場面があった。個人情報や守秘義務の徹底については施設長より指導が行われ、写真掲載などの使用については、本人・家族の了承を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすいような雰囲気をつくり、ゆっくりとした時間の中で希望を聞き、自ら決定できるように促しをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、誘うときも無理に誘うことなく、何をしたいか希望を聞き自分のペースで日々を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向により衣類の決定をしてもらったり、買い物時も本人同行し購入してもらっている。行事ごとに化粧や飾りなどでおしゃれをもらっている。美容室も送迎の対応もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に嗜好調査を反映し、季節や行事に合わせていたりしている。利用者の方が〇〇が食べたいと申し出があると急に献立を変えることもある。また下ごしらえや配膳、洗い物等職員と一緒にして頂いている。	入居者に喜んでもらえる食事となるよう、嗜好調査や食事中の会話から聞かれた食材などを活かし献立が作られている。特にカレーや丼物が好評であり、週2~3回工夫して提供されている。行事食にも力を入れており、御節料理も各ユニットで分担し、伊達巻も手作りされている。また、普段のメニューに刺身も取り入れ、生ものが苦手な方には湯引きして出されている。食材は配達や不足があれば入居者と一緒に購入に出ている。お盆拭きの他、下ごしらえには96歳の入居者も腕を振られている。	調理専任者も採用しながら、職員は美味しい食事の提供に努め、同じ食事で会話をしながら一緒に摂っている。今後も入居者の楽しい食事支援を継続していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じた料理形態で提供している。また食事の摂取量が少ないときは、かかりつけの医師に相談し高カロリー食品で対応をしている。また水分の摂取は利用者の好みの飲み物で対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを各自して頂いているが、最終チェックは職員が行っています。出来ない人は職員が対応している。週に3回ほどの入れ歯の消毒をおこなっている。また協力歯科医師も定期的に口腔内のチェックに来て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに定期的な声掛けを周りに配慮しながらトイレ誘導している。また本人の様子や行動のパターンで判断している。全介助の方には二人で介助を行っている。	現在は紙パンツを使用されている方が殆どであるが、日中は布下着を着用されている方もあり、継続できるよう必要に応じた声かけを行っている。夜間のみポータブルトイレを使用される方についても、転倒などがないよう、十分配慮している。入居者は各々時間帯によって使い慣れたトイレがあり、職員はどの場所でも気持ちよく使えるよう、日に3回の掃除を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排泄状況を把握し水分補給、適度な運動に実施をしている。料理の工夫や牛乳、ヨーグルトの摂取等をしてもらっている。またかかりつけの医師の指示をいただいて状況を連絡しながら薬の調節指示を頂いています。お腹のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望、体調に合わせて隔日に入浴をして頂いている。希望で毎日入浴可能。また菖蒲湯、ゆず湯など季節の湯を楽しんで頂いている。入浴は職員2名体制で事故がないよう努めている。	安全で寛げる入浴に努めており、職員体制を整え支援にあたっている。また、1日2回のバイタルチェックや表情などから可否を見極め、基本的に週3回の支援が行われている。入居者の中には自分で着替えの準備をされる方もあり、入浴中も洗身などできることは見守り、できないことをサポートしている。浴室内の掃除も徹底しており、冷えや暑さから入浴が億劫にならないよう、脱衣所も含め季節に応じ室温を管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごしてもらっているが、昼寝等時間が長い人は昼夜逆転にならないように気分転換に散歩に誘っている。夏、冬の室温の調整もこまめにし安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については説明書を参考に服薬の支援をしている。かかりつけの医師に薬の見直しをお願いし、量を減らしてもらっています。副作用の症状等あれば直ぐに医師に報告し改善をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の持てる能力を生かし、自分なりの役割分担を決めてもらっている。褒めることや御礼をいうことでやりがいを感じてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせて天気の良いときには近くの公園への散歩や物産館への買い物の手伝いをしてもらっている。桜の花見、菖蒲の花見、お祭り、観音様参り、紅葉見学等多彩です。近くのえびす祭りにはGH全員18名で見学参加をしている。この外出では近所さんと良くお会いするので皆さんの顔も生き生きしています。本人様が家へ帰ってみたいと話されれば一緒にドライブかたがた伺っています。	地元の『えびす祭り』は、入居者にとって馴染みでもあり、知人と会える機会を大切にしており、全員での外出が実現している。公園や物産館などホーム周辺は季節を感じながら身近な散歩を楽しめる環境であり、体調にも配慮しながら外に出る機会を持っている。敷地内でも散歩や外気浴、まつられた水神さまを拝まれる方など、個々に応じて支援している。また、地域資源を活かして桜や菖蒲・紅葉見学、観音様参りなども継続して支援している。	車酔いや長時間のドライブ外出が困難な方もおられることから、今後も個別での支援で可能な外出に取り組まれる事を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小金額の所持は家族の合意で認めている。また、預かり金として小遣いを預かっているので本人希望のときは買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用していただいているがあまり長話にならないようにしている。暑中見舞い年賀状の作成支援をしている。また筆の代筆も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に安全、清潔に努め、玄関、リビングには職員が持ってきた生花があり季節感をだしている。また利用者は光、音、温度に敏感であるため常に配慮をしている。壁には工作がしてあり利用者と職員の大作である。冬場は廊下が冷えるために邪魔にならないところにストーブの設置をしています。	玄関やリビング食堂などの共用空間は、入居者作品の掲示など、季節感に配慮した環境に努めており、それぞれのユニットの職員の工夫やアイデアが活かされている。リビング食堂のソファや廊下には腰を下ろすための木製の長椅子など、休憩スペースが配置されており、入居者同士や一人の時間を持つことができる。経年にあっても臭気もなく手入れの行き届いた空間である。施設長は職員自身も入居者に居心地のよい環境となり、入居者に安心感を与えることを指導している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が南向きで日当たり良好なので自室で過ごされる方もいらっしゃいます。廊下には小人数で腰掛られる作り付けのベンチがあり、休憩しながら利用者同士でお話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使ってもらっています。自分が親しみを持った筆筒やドレッサーなどを持ち込み環境の変化を抑えている。壁にも写真等たくさん貼ってもらっている。必要時には加湿器の準備もある。	これまでの生活環境の変化を抑え、安心して過ごしてもらえよう、思い出の品や使い慣れた家具などの持ち込みを依頼している。入居年数が経たれた方には、特に物品の配置や動線の再確認等見直しながら転倒予防に努めている。天候の良い日は布団干しや窓を開け十分な換気が行われている。掃き出し窓で広さも十分な部屋は圧迫感もなく、庭先の木々や田園が眺められ、木の温もりが更に居心地の良さに繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂などに手すりを付けて安全性を高めている。また部屋にはネームをつけたり、便所、浴室等のプレートがある。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケア サポート		
事業所名	グループホーム若葉園(北館)		
所在地	熊本県球磨郡多良木町大字多良木1,537		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本3丁目13-12-205号
訪問調査日	平成28年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多良木駅から徒歩で3分のところに位置し、周りにはえびす温泉、えびす物産館、多目的グラウンド等が集まり、環境にはやさしい雰囲気があり利用者の皆様のケアには大変すばらしいところです。同敷地内に小規模多機能ホームわかば園があり、敬老会、運動会などお互いに行き来し交流を深めています。また小規模のホームの隣には共生施設があり、放課後学童保育が行われています。子供たちの「ただいま～」の声を聞く事を楽しみに学校から帰ってくるのを皆さん待っています。学童の子供たちは、夏休みや行事があるたびに駆けつけてくれ、高齢者とのふれあいを大切にしてくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアーのよく目に付くところに掲示し職員一人ひとりの目環境に配慮しているとともに、ミーティング時に理念に沿ったサービスが出来ているか確認し合い、サービスの向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、祭り等に参加したり、学童保育や共生施設の利用によりグループホームにも出入りが増えてきている。徘徊、声掛け訓練に散歩かたがた参加されております。町内はもとより、町外からの体験学習の受け入れもし、交流は確実に増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	若葉園グラウンドゴルフ大会を年、2回行い、認知症のことや若葉園の事をお話しています。また、地区の寄り合い等に参加した時には、短時間の認知症の話をさせてもらっている。インフォメーションには認知症啓蒙のポスターを掲載しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーは行政、地域包括、区長、民生委員、家族代表、利用者代表と多彩で、全員の方を指名し意見を述べてもらいます。今年も看とりについて園側、利用者家族の意見、要望等について話しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場が大変近くにあるので、行政からの情報等は直ぐに連絡をいただいています。園からは、電話等でも報告を聞いて頂いたり、また、役場に出かけ相談等を気軽にしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳を第一に、身体拘束、虐待の勉強会を行い、実践に繋げている。また、外出の希望があれば職員付き添いで散歩をしている。夜間施錠が基本としている。リビングには事故0の表示をし、転倒防止のケアに努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことは運営推進会議や社内研修時に報告をし、虐待に対する考え方を認識してもらっている。また、手のあざ等介護際につく内出血等、介護の工夫も話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人が自らの意思を表現できるように、感情や顔の表情に注意しながら支援をおこなっている。成年後見制度の利用はないが、研修会に参加し、社内ミーティングにて制度について話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には契約書、重要事項説明書の内容を十分に説明し、看とりに関しての契約についても質問を行い、余裕を持って契約をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の方とコミュニケーションをとり意見を聞きだす事に努めている。また、管理者が面会の家族に直接対話し、要望等伺っている。また、家族会が中断となってしまうので復活を目標に考えています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体朝礼の時に代表者は経営や運営の意向を伝えまた、各棟のミーティングを行い要望や問題等を、リーダーミーティングの際には相談や意見を受け入れてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の個々の能力を出せるような研修参加や環境を作りを行い出来るだけ残業等はしないように退帰時間の厳守を指導している。処遇改善手当は毎月の基本給に手当として加算して支払をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はもとより資格取得の費用を全額会社負担とし、仕事に対するやる気と自信を持ちながら業務に就けるように支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ではグループホーム協議会が組織され2ヶ月に1回の研修会と、12月には忘年会が開催され、交流も盛んである。また、各GHを利用者と一緒に訪問し交流を行っています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所まえの聞き取を参考に本人と家族の不安、要望を聞き取り、安心して生活できるようにカンファレンスにて介護の統一をはかりプランに反映をさせている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より家族の方に園内見学をしてもらい園での雰囲気を感じてもらっている。月末に一月分の利用者の方の生活、体調、行事等、担当者が書面にて報告をしている。病気、事故等はその都度連絡を入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所直後、暫くは頻繁に連絡を取り合ったり面会を促したりして利用者の方が一日でも落ち着き、早くなれていただくように支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできること(掃除、洗濯物干し、たたみ野菜の皮むき、刻み)などできることを職員と一緒にしたり、他利用者のお世話をしている場面も見られます。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとに家族の方をご案内し、利用者、家族、職員の信頼関係をつくりお互いに何でも言える環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人面会時には記念写真をとり双方に渡し、再度の来園をうながしたり、出身地域へのバスハイク、多良木町のえびす祭り等に参加し神輿の声援なども行っている。親戚関係の集まりの時は家族または職員が付き添いで出かける支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の性格や意向を汲み取り、席の配置を考えて気分良く生活をしていただいている。利用者間のトラブルの際は職員が直ぐに間に入る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、定期的に病院、施設を訪問し面会をし、そのたびに家族との連絡をとりあっている。また相談にも対応をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成者は入居前のアセスメントにより本人の希望、意向を確認し、入居後も必要時にカンファレンスを実施し本人の意向を把握するようにしている。意思の疎通が困難な場合は家族との意見交換や入居後の行動、表情などで判断している。職員に合わせた介護でなく本人主体で支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、家族、CM等のアセスメントにて生活歴、嗜好、サービス利用の過程等詳しく聞き取り把握をしている。また面会のときに職員からの生活パターンを再確認をしたり、様子を見ながらサービスの変更をしながら本人が快適に暮らせるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者、職員は毎日の生活支援の中で、観察記録、情報交換により把握をしている。また本人に出来る事はして頂こうと声掛けするものの無理に作業、レクリエーション等に誘わないようにし、様子を観察をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向を大切に、介護の統一化をするため、全員でのカンファレンスを行い、その結果をプランに反映させながら、本人に合うケアプランを全員で検討し作成をしている。また退院時には特に病院側とこれから本人の機能アップについても協議をしプランに繋げています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践にあたり、本人の変化を直ぐに気づく様な洞察力を養いながら、職員全員が記録により情報の共有をしている。また、引き継ぎも何回も行い、事故がないよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅希望の利用者が家族の都合で向かえにこれないとき自宅までの送迎や、個々の買い物などの支援等をしている。また、法事等の時は付添にて対応している。家族が忙しい時はこちらから本人を家まで送りお互いに安心できる環境を作っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、ボランティアの訪問を地域に呼びかけたり、非常時の対応について消防署、行政に指導を仰いだり、共同訓練をしている。今回は徘徊、声掛け訓練を行いました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に密な連絡、連携体制がとれており定期的にホームを訪問、熱発時には往診など日曜日でも対応をいただいている。また、緊急対応時には救急車で病院まで付き添って頂いてもらい、利用者・職員も助かっています。看取り時にも先生が付き添って頂き職員もご家族様も安心しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身状態の変化を見逃さないように、気付いた情報を看護師に伝え、利用者が適切、迅速に処置を受けられるように協力医と連絡をとり支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状況を医療機関に報告し、入院時には看護師、担当医に治療状況の把握をしている。また利用者に安心感を与えるため、職員が毎日のように面会に行き、声掛けや食事の介助など支援している。また退院時にはDr.看護師とカンファレンスを行い、定期的に園に来て頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、契約時に出来ること出来ないことを家族に伝えている。またホームで出来る支援を家族、かかりつけ医、管理者、職員と協議し医師の指示の下に支援をしている。医師より家族と職員に今の利用者の状態、これからの流れ等を説明をしてもらっている。職員に対し終末期の介護支援の講習をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署、協力医を招き講習をおこなっている。また、緊急時に備えマニュアルをよく見える所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練には自治会、消防署、消防団に参加を呼びかけている。マニュアルの掲示、説明を定期的に行っている。特に当園は水害が考えられないため、10日に一回防火点検を行っている。またAED設置もインフォメーションに掲示している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊重やプライバシー保護は家族にも十分に説明し、写真の使用を了解をもらっている。また、利用者の方が傷つかないような声掛け、声の大きさなど特にトイレ誘導等羞恥心を損ねないよう対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすいような雰囲気をつくり、ゆっくりとした時間の中で希望を聞き、自ら決定できるような促しをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、誘うときも無理に誘うことなく、何をしたいか希望を聞き自分のペースで日々を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向により衣類の決定をしてもらったり、買い物の時も本人同行し購入してもらっている。行事ごとに化粧や飾りなどでおしゃれをもらっている。美容室も送迎の対応もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に嗜好調査を反映し、季節や行事に合わせてたりしている。利用者の方が〇〇が食べたいと申し出があると急に献立を変えることもある。また下ごしらえや配膳、洗い物等職員と一緒にして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じた料理形態で提供している。また食事の摂取量が少ないときは、かかりつけの医師に相談し高カロリー食品で対応をしている。また水分の摂取は利用者の好みの飲み物で対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを各自して頂いているが、最終チェックは職員が行っています。出来ない人は職員が対応している。週に3回ほどの入れ歯の消毒をおこなっている。また協力歯科医師も定期的に口腔内のチェックに来て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに定期的な声掛けを周りに配慮しながらトイレ誘導している。また本人の様子や行動のパターンで判断している。全介助の方には二人で介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排泄状況を把握し水分補給、適度な運動に実施をしている。料理の工夫や牛乳、ヨーグルトの摂取等をしてもらっている。またかかりつけの医師の指示をいただいて状況を連絡しながら薬の調節指示を頂いています。お腹のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望、体調に合わせて隔日で入浴をして頂いている。希望で毎日入浴可能。また菖蒲湯、ゆず湯など季節の湯を楽しんで頂いている。入浴は職員2名体制で事故がないよう努めている。となりの温泉の利用もしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごしてもらっているが、昼寝等時間が長い人は昼夜逆転にならないように気分転換に散歩に誘っている。夏、冬の室温の調整もこまめにし安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については説明書を参考に服薬の支援をしている。かかりつけの医師に薬の見直しをお願いし、量を減らしてもらっています。副作用の症状等あれば直ぐに医師に報告し改善をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の持てる能力を生かし、自分なりの役割分担を決めてもらっている。褒めることや御礼をいうことでやりがいを感じてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせて天気が良いときには近くの公園への散歩や物産館への買い物の手伝いをしてもらっている。桜の花見、菖蒲の花見、お祭り、観音様参り、紅葉見学等多彩です。近くのえびす祭りにはGH全員18名で見学参加をしている。この外出では近所さんと良くお会いするので皆さんの顔も生き生きしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小金額の所持は家族の合意で認めている。また、預かり金として小遣いを預かっているため本人希望のときは買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用していただいているがあまり長話にならないようにしている。暑中見舞い年賀状の作成支援をしている。また筆の代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に安全、清潔に努め、玄関、リビングには職員が持ってきた生花があり季節感をだしている。また利用者は光、音、温度に敏感であるため常に配慮をしている。壁には工作がしてあり利用者と職員の大作である。冬場は廊下が冷えるために邪魔にならないところにストーブの設置をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が南向きで日当たり良好なので自室で過ごされる方もいらっしゃいます。廊下には小人数で腰掛られる作り付けのベンチがあり、休憩しながら利用者同士でお話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使ってもらっています。自分が親しみを持った筆筒やドレッサーなどを持ち込み環境の変化を抑えている。壁にも写真等たくさん貼ってもらっている。必要時には加湿器の準備もある。仏壇の持ち込みもある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂などに手すりを付けて安全性を高めている。また部屋にはネームをつけたり、便所、浴室等のプレートがある。		